



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／宮坂宥洪
- 副会長／北村正春・牛山幸一
- 幹事／林 裕彦
- 会報・雑誌・広報委員長／山岡晴男

■ 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F

Tel/0266-22-6939 ・ Fax/0266-23-6939 ・ URL: <http://okayarc.org> ・ E-mail: okayarc@amber.plala.or.jp

■ 例 会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2474 回例会 2010 年（平成 22 年）5 月 11 日（火）

司 会：笠原新太郎 齊 唱：君が代・奉仕の理想
 点 鐘：北村正春 ラッキーNo.：No.25 山岡正邦
 皆 勤 祝：矢崎宏明 7 年・山岸邦太郎 7 年・笠原新太郎 2 年
 誕 生 祝：小口成人・小口俊光・宮坂 伸
 結 婚 祝：濱 透・濱 俊弘・笠原祥一・佐藤有司・中嶋孝一



誕生祝

牛山繁雄殿に謹んで黙禱を捧げます。黙 禱

会長挨拶 北村 正春 副会長



本会副会長の牛山幸一会員のご尊父様であり、1981-82 年度(第 22 期)の会長 牛山繁雄様をご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

尚、尊い遺志金を賜りましたので、ここにご報告させていただきます。

今日は会長がお休みされましたので、代理を務めさせていただきます。

少しの時間ですがせっかくの機会ですから合気道についてお話ししたいと思います。

合気道の創始者 植芝盛平先生は、日本古代からの神秘的伝来の根源にある『むすび』を自ら感得し、その中から言葉を発していると共にその『むすび』を『合気』としていろいろな技術と組み合わせて、愛の武道として合気道と呼びました。

古事記では『むすび』を森羅万象の生成の根源として、高御産巢日の神と神産巢日の神として出てきます。日本書紀では『むすび』を『産霊』と書き霊的な部分に係るものとして明らかにしています。

植芝盛平先生は合気道を「魂のひれぶり」とおっしゃいました。これは魂に横溢した力の発せられる事を形容しているのもで、合気道とは『むすび』を知る事で、日本神道の最大の秘技である靈魂の生成を為そうとする行為なのです。

しかし私を含めて今の合気道人には柔術としての合気道の稽古に明け暮れ、『むすび』としての合気又は合気柔術を理解出来るものがほとんど居ないのが現状です。

例会変更

辰野RC=5/12(水)早朝 530(ゴミゼロ)例会に変更。5/26→22(土)箕輪RCとの合同親睦例会に変更。ビジター受付は 12 日・26 日 11:30~12:30 クラブ事務所にて。

幹事報告

- 5/13(木)は新旧クラブ協議会です。次年度 6 時～、今年度 6 時半～。岡谷パークホテル開催します。よろしくお願いします。
- 「書損じハガキ」キャンペーンの感謝状が届きましたので、ご報告します。
- 次週 5/18 の例会はガバナー補佐が訪問されます。よろしくお願いします。
- 5/15の牛山繁雄様のご葬儀に太田屋から送迎バスがでます。ホテル岡谷を11時出発です。ご利用ください。

委員会報告

社会奉仕委員会 6/6(日)午前 6 時～。諏訪湖及び河川一斉清掃が行われます。集合場所は温泉スタンド裏。清掃の出来る服装でお集まりください。出欠表を回覧します。多くの方のご協力をお願いします。

卓話 「四つのテスト・CLP・雑話」

地区ロータリー情報委員長
尾関 秀雄 様



卓話をする機会を頂き、有難うございます。

情報委員長は、ロータリー綱領原則及び発展に、4 大奉仕部門に関して会員の理解を育む事をカバーする責任が求められる。

新入会員を含めて、クラブ会員全員が地域毎に行われる、I. M (インターシテミーティング)に年 1 回参加して、勉強とその気風を養って欲しいとお願い致します。

相互の親睦と知識と奉仕の理想、を勉強される会議であります。

〈奉仕の理想〉

個人生活、社会生活、職業生活に於いて、利己的欲求を最小限に、最大利他を求め続ける事こそが奉仕の哲学であると言われてています。

本日は、①四つのテストの経緯・②CLP 導入に関して・③仕事とロータリアンとしての雑話の話をさせていただきます。

● 四つのテスト ●

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか？
2. みんなに公平か？
3. 好意と友情を深めるか？
4. みんなのためになるかどうか？

The Four-Way Test of the things we think, say or do

1. Is it the TRUTH ?
2. Is it FAIR to all concerned ?
3. Will it build GOOD WILL and BETTER FRIENDSHIP ?
4. Will it be BENEFICIAL to all concerned ?

日本語訳の経緯

1. ロータリーの文献の日本語訳は、戦前、ロータリーの日本化の手段として既に問題となっており、戦後は、また、ロータリーの普及のため、強く要請されていた。しかし、R Iでは「ロータリーの文献の、英語以外の国語への翻訳、印刷は、すべてR Iの事務総長の直接の監督下におかれるべきこと、ならびに、各クラブが独自に翻訳、修正することを奨めるものではなく、ロータリーの文献の配布も、R I理事会の承認を要する」と定められ、さらに、日本語への翻訳については「定款、細則から諸パンフレットや手続要覧に至るまで、すべてのロータリーの文献の邦訳の決定権は、手島知健氏に委譲する」と指定されていた。
2. こうした動きを受けて、手島氏は「The Four-way Test」の日本語訳については、1954年（S29）に「簡潔で分かり易いもの、疑問体の

もの、反語を避けて誓言的でないもの、ロータリアン以外の人々、特に若い人にも難解でないもの」との条件の下に、全国のクラブに日本語訳の応募を働きかけられた結果、当の手島氏の試案も含め70数件の応募が寄せられた。

3. こうして応募された「The Four-way Test」の邦訳案については、前記のR Iの指導方針からその邦訳を一定にする必要が生じた。そこで、全国から集まった邦訳案を先ず60地区、61地区（1952年=S27から全国2地区制）の「50周年記念委員会」の委員が詮衡し、その上で手島氏に最後の決定を頂いた結果、本田親男氏（東京クラブの所属で、毎日新聞の社長＝最高顧問）の応募訳が「当選原案」として採択されたが、標題については、他の応募案の中で1番多い用語である《四つのテスト》を手島氏が選ばれて現在の「標準邦訳」になったと「ガバナー月信」はじめ「ロータリー日本50年史、60年史」は伝えている。
4. このように「The Four-way Test」の定訳は、R I本部の作でもないし、日本支局の翻訳担当委員によるものでもなく、当時の日本全国の、ロータリアンの応募作品の中から「標準邦訳」が定められたところに特徴がある。

クラブ・リーダーシップ・プラン

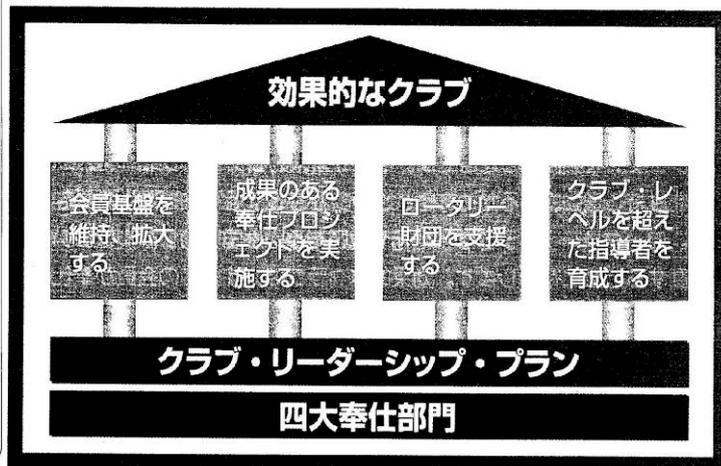
CLP

(Club Leadership Plan)

地区リーダーシップ・プランの延長計画であるクラブ・リーダーシップ・プランは、奉仕の第二世紀においてロータリーが安定、成長、成功を遂げるために極めて重要です。同プランは、ロータリーの綱領を追求するにあたっての、手続の標準化と諸活動の方向付けを行うための管理的枠組みをクラブに与えるものです。

クラブ・リーダーシップ・プランは、継続性や情報伝達、ロータリアンの関与を確実にするための標準手続を策定するようロータリー・クラブに促すことから始まります。このプランには、「効果的なロータリー・クラブとなるための活動計画の指標」を用いての方策計画および目標設定が含まれています。簡易な委員会構成はクラブの中心的業務に主眼を置いていますが、クラブの奉仕目標や親睦に取り組むために拡張することができます。

効果的なクラブとなる四つの要素



2650地区では、2006-07年度よりほとんどクラブ（82RC）が一斉にCLPを導入しました。

CLPに基づいた新しい推奨クラブ細則はその冒頭に「本細則は単に推奨されるにすぎない。従って、ロータリークラブは、標準ロータリークラブ定款、R I定款、R I細則、およびロータリー章典と矛盾しない限り、クラブ自身の事情に応じて変更することができる。」と書かれています。

現在、地区内各クラブは独自性を発揮し、それぞれ大変工夫したCLPに取り組んでおられます。

しかし、CLP導入約1年を経過し、運営上の問題点もいくつか見受けられるようになりました。

今回、CLPの背景や基本的な考え方について再度確認し、地区内CLPの現状と今後の課題について提案させていただきたいと思っております。

R IはCLPを毎年見直しを図らなければならないと提唱しています。時代の変化とともにクラブ委員会構成の簡素化や効率化が求められています。

今回のCLPは、会員の減少に直面したり、活動のマンネリ化に悩み、社会ニーズの変化に対応できないクラブのためだけでなく、すべてのクラブにとっても、新世紀に求められる魅力あるロータリーの構築のための変革の一つのモデルプラン、そしてクラブ運営再点検の機会として捉えていただければと思います。

今後、それぞれのクラブがクラブに適したCLPの良い部分を取り上げながら、独自性を発揮し、クラブの理想像を描きながら、「魅力あるクラブ作り」に邁進されることが望まれます。

(R I2650地区 地区手続規則委員会)

[ロータリアンには変わらない基本がある]

ロータリアンとして仕事を通しクラブを通じて、地域社会に奉仕貢献する時が来ています。それぞれの個性を生かした活躍を期待致します。

さて、わがままの中にも許せる我儘と許せないものがあります。自分のわがままが自分で許せなくなって、本当の大人であります。今の社会は多くの人の価値基準が得をするか儲かるか、つまり、「自分に益がなければ意味がない」と言う考え方が多いのです。この考え方こそ自分の気持の中で押える必要があります。「益が無くとも意味がある」こんな言葉に耳を傾ける事がロータリアンです。

人の幸せの基である文明社会を創る者は、財とサービスを創出する組織で働く人は普通の人々であります。私達も明日を創る担い手として自負と責任を感じて進みたいものです。

[長続きさせる努力を]

働くと言う事はロータリアンにとって、崇高で大きな価値と意味のある行為であります。

労働は欲望に打ち勝ち、心を磨き、人間性を高めていく効果があります。日々の仕事に精魂込めて、一步一步、積み重ねて行く事が大切になります。

古い話しですが、二宮尊徳は生れも育ちも貧しく、学問もない一介の農民であり鋤、鍬1本を手に、朝は暗いうちから夜は天に星を頂くまで、田畑に出て誠実に懸命に農作業に努め働き、疲弊した農村を次々と豊かな村へと変えて行くという偉業を成し遂げたと言えます。その功績によって徳川幕府に登用され、並居る諸侯に交じって殿中に招かれるまでになりました。

その時の立ち居振舞いは、一片の作法も習った訳でもないのに真の貴人の如く威厳に満ちて神色さえ漂ったと言います。

田畑での精進が自身も意識しないうちに彼の内面を深く耕し、人格を造り、心を研鑽して魂を高い次元へと練り上げていったのでしょ。

一つの事に打込んで来た人、一生懸命に働き続けて来た人は、日々の精進を通じて、自然と魂が磨かれていき、厚みの有る人格を形成して行くのでしょ。一度の人生を無駄にしない様真摯に愚直なまでの生き様を継続する事が望ましいのではないかと思います。

クラブ内ロータリアンの生き生きした活動で、入会后、間もない会員にも参加指導を行い、融和の雰囲気を出したい。

【創意工夫で】

才子といわれる人は往々にして今日を手抜きをする傾向にあります。功を焦るあまり、思わぬところで足をとられる事も多い様です。優秀で利発な者が入社して、少しの時間で、この会社には将来が望めないと辞めて行きました。残った者は平凡で転職する才覚のない人材という事になりますが、10年後、20年後、各部署の幹部となり、リーダーとなって来ました。平凡な人材を非凡に変えるものは何か？

一つの事に飽きずに努め、今日一日を懸命に生きる力、又、その一日一日を積み重ねて行く継続が平凡を非凡に変えた事であります。漫然と繰り返すのではなく、今日より明日、明日より明後日と、少しでも進化を加え、疑問を投げ掛け、創意工夫する心が大切です。

[迷った時には基本に]

クラブ内でも自分の知らない分野の事、対策や解決策は責任者が負う事になりますが、判断は速やかに下して行かねばなりません。

些細な問題で、あっても、何が正しいのか？シンプルなポイントに判断基準をおいて、正しいことを正しいままに貫いて行う。(原理原則・基本に忠実に)

「嘘をつくな、正直であれ、欲張るな、人に迷惑をかけるな、人には親切にせよ」子供時代に親や先生に教わった、当然守るべきルール。当り前の規範に従って行けば良い。人間を律する道徳や倫理を人生にも仕事にもロータリーにも「原理原則」に則して従ったものであれば、迷う事なく、正々堂々と実行する事ができます。

[効果を上げる]

何事も「言うは易し、行うが難し」容易なことではありません。絶えず戒めて行くことです。考え方には、良い考え方をプラス方向に向け、熱意・能力を発揮する場合と、時にはこの考え方の要素には、マイナス志向も存在し、熱意や能力の点数が高くても結果が良く出ない事もあります。

福沢諭吉が講演で、語った一節で、「思想の深遠なるは哲学者のごとく、心術の高尚正直なるは元禄武士のごとくにして、さらにこれに加うるに土百姓の身体をもってして、初めて実業社会の大人たるべし」立派な人間の必要条件である。奉仕活動への考え方・熱意・能力の大切さを強調して活かして行きましょう。

会員は今まで、社会の色々な人々の協力等、大変お世話になって今日の立場があります。今、社会に対して恩返しをして行く番です。その一部にロータリーの奉仕があるのです。他人から「してもらおう」立場にいる人間は、足りない事ばかり目につき、不平不満を口にしますが、「奉仕を行う」側に立って社会に貢献する気持で努めて下さい。

「イノベーションチャレンジ」生き残りの一発逆転はヒーロー気分を味わえ、見た目に派手で格好は良い。余程に実力が無いとその様な経験は出来ないものです。ロータリーの役割と責任を持って活動を遂行するためには、何事にも余裕を持って対応する。口だけで終わることは意味がありません。後悔する事だけです。

奉仕の機会を充分クラブ、委員会で打合せ、話し合い、検討し、地域社会ニーズに取り組むことを望みます。楽しいクラブ活動が生れてくる、効果も期待できると思います。人間の喜びで最たるものは、人に頼りにされ、あてにされる事で、あると思います。

1.根気

「世の中は、根気の前には頭を下げることを知っています。火花のあとには一瞬の記憶しか与えてくれません。だから、牛のよだれのように根気よくやりなさい。」夏目漱石が芥川龍之介に宛てた手紙の一節です。ほとんどの人が、やればすぐ成果につながる事ばかりに気をとられているから、心底からの信頼が得られないのだと思います。

2. 変わった人

「あの人は、いくつになっても変わらない」と言われるような生き方だったら考えものです。己の怠慢を反省する必要があります。願わくば「あの人は、このごろすっかり変わった」と言われるような生き方ができれば、何よりです。気づきが身についた証です。

もっとも、私のように「変わった人だ」と言われるようでは問題ですがね。

3. 不合理を合理的に

仕事も人生も、合理的なことばかりがあるわけではありません。むしろ、現実是不合理なことのほうが圧倒的に多いのではないのでしょうか。だからといって、不合理なことを不合理なままにしておくのであれば、そこに努力も工夫も必要ないことになります。不合理なことを何とかして合理的に変えようとしたときに、人間は努力もし、工夫もするものです。

ニコニコボックス

第 2600 地区ロータリー情報委員長 尾関秀雄様 卓話をさせていただきます。

林 裕彦・林 靖高・佐藤有司・濱 俊弘・高木昭好・平沢清文・小口雅弘・竹村一幸・小口成人・大橋正明 第 2600 地区ロータリー情報委員尾関秀雄委員長の卓話、楽しみにしています。

井上保子・梅垣和彦・大橋正明・小口泰史・小野 仁・笠原祥一・北澤洋之助・北村正春・小出 篤・小松正二・中嶋孝一・濱 透・林 裕彦・林 靖高・原 史郎・藤森睦美・矢崎宏明・山岡正邦・山岸邦太郎 御柱祭、御苦労様でした。

笠原新太郎 トーハツ跡地に新規店オープンしました。どうぞごひいきに宜しくお願いします。

山崎典夫 結婚祝いのお花をいただきました。ありがとうございました。

北村正春・笠原祥一・梅垣和彦・小口成人 創業月です。

出席報告

会員数 47 名、出席者 34 名、出席率 72.34%、前々回訂正 72.34%

<ロータリーカード入会のお願い>

お買い物をする際にはロータリーカードで！！

自己負担なしで自動的に財団へ寄付することができます。

(注: クラブ番号=14231・オリコカード営業部 03-5877-5531)



2009-2010 年度 R I テーマ
ロータリーの未来は
あなたの手の中に
THE FUTURE OF ROTARY

